

◇平成 23（2010）年12月7日 文教市民委員会

No.45 灰垣委員

私の考え方、また意見、要望という感じでとらえていただければと思いますけれども、先ほどからお話のありました、史跡嶋上郡衙跡の件ですが、ここは奈良時代ですから、今から1,300年ぐらい前になるのでしょうか。摂津の国という、これも改めて学ばさせていただきましたが、今で言うところの都道府県に当たるといふうに聞いています。また、嶋上郡というのは、高槻市という市に当たると聞いています。そこで、市役所があったと。それがこの嶋上郡衙跡と。この史跡指定があつて、35年ほどの間に300か所ぐらい、もう既に発掘調査を行つて、いろいろなものが出てきている。例えば上郡の墨書土器ですか、それから1.2メートルの大木をくり抜いた厨の井戸枠とか、そういったものが出てきているというのを、これはネットを見たらわかることなんですけれども、これを保存していくということは、私は非常に重要なことだと思つております。

しかし、先ほどのご答弁にもありましたが、この文化財保護法にのつとつてということであれば、第1条には、「この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資する」云々となっているんですが、文化という非常に幅広い、とらえがたい部分もありますけれども、例えば、文化と言われると音楽であつたり絵画であつたり、書であつたり、また踊りであつたりと、そういったことを文化と総称して言うのかなというふうに思いますが、定義を見ると非常に難しい言葉で書かれているので、そういうのを文化と言うのかなと思うんですが、この文化というのは、やはりかかわった人だけが楽しむものじゃないというふうに私は思つてるんです。例えば音楽だって、自分が演奏するだけでは本人の満足で終わると。これを皆さんに聞いてもらつて、そこで元気をいただいたり、そういったことがあると。芸術もそうでしょうし、また絵画、書、先ほどの踊り等も含めて、この文化財も同じような位置づけだと私は思うんです。だから、広く公開していく、どのように公開していくんだということが問題になってくると思うんですが、生涯学習というような言葉が出てくるのですけれども、先ほどご答弁の中に、今城塚と連携してというような話もありました。4月オープンして、各月の入館者というか、入場者を確認させてもらいましたけれども、比較的多くの方が来られているようです。確かに皆さんの努力もあつて、いろいろな企画もされて、また「こちら館長室」というのをネットでつくり、車のナンバーを調べられて館長が報告をされていますけれども、50幾らかの、要するに大阪以外のナンバーの方たちも来ているというふうな報告だったと思うんですが、他市の方にたくさん来ていただくということも重要です。

先日、文教市民委員会、この常任委員会で視察に行かせてもらった登呂遺跡の件ですけれども、これは教科書にも載りました。非常に有名な登呂遺跡であるんです。また建物も非常にすばらしいものが建つてましたし、ただ、当時、私たちがお邪魔したときには、本当

に閑散としてました。開場当初というんでしょうか、オープン当初と比べると、随分やはり来場者も減っているということもお聞きしてますし、リニューアルしながら、その後もやはり来場者は減っているということを考えたときに、この今城塚オープンに際しても、私も申しあげましたけれども、オープンして間なしというのは、やはり話題性もあって来館者も多いということが言われると思うんです。今後どのようにしていくかということ、この嶋上郡衙跡地も含めて連携をしていくというのが非常に重要であるというふうに私は思います。

文化財課長と話をしていましたら、他市の行政の方が、古墳の公園に設置されている埴輪が何の損傷もなく維持されていると、ここに感心をされているという、確かにすごいことだなと私も思いました。ただ、裏を返せば、そういう危害を加えない、要するにマニアックな人たちだけがそこに来ているとかいうことも逆に考えられるわけで、多くの方に来ていただくということを前提にした上での取り組みが重要であるということを考えたときに、そういった裏返しのお考え、皮肉ったお考えになるのかなと思うんですが、非常に交通の便も実は悪いというのが私の認識です。私の自宅からで恐縮ですが、行こうとすれば1時間近く、交通機関を使えばかかってしまうと考えたときに、代表質問でも言いましたけれども、JRから直通のバスを出すとか、これがどれだけ経費がかかるのか、これを実現しようとしたら、そしたら市バスのほうにそういう問い合わせをしたのかとお聞きすると、そういうことはまだされてないということです。そういう工夫がこれからは必要になってくるということ、登呂遺跡を前提にして申し上げておきたいと思っています。多くの発掘調査にもお金もかかっております。これは私は絶対に保存していくということは大事なことだと思っています。その上で、改めて文化に対して市民、特に高槻市民がそのことによって気持ちの醸成というか、心の醸成というのを図れるような施設にしていきたいなということをひとつ申し上げておきます。

もう1つは、高槻シティ国際ハーフマラソンの件ですけれども、被災地の小学生15名と引率、また中学生10名を招待されるということで、非常にこれもいいことだと思いますが、ただ単に被災地の方がハーフマラソンに参加したということだけで終わらないようにしていただきたい。その、来た人たちも、元気をもらったり勇気をもらったり、希望をもらったりというような催し、またその子どもたちが来ることによって、参加されるほかの方たちが、そのことによって、よし被災地の応援をしようよというような、そういったことが図れるような工夫も必要だと思いますので、この点もどうかよろしく願いいたします。

私の考え方と要望を含めて、以上でございます。